

「今川文化と能と家康」題材に講演

葵区、講師を招き

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」は21日、

横浜国立大教授の三宅晶子さんを講師に招き、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで講演会を開いた。テーマは「今川文化と能と家康」。会員約200人が参加した。

三宅さんは、文化に造詣が深かった今川家が能に与えた影響を解

説した。今川家の人質として幼少時代を過ごした家康について「能好きとして知られ、自身も能を舞っていた」と紹介した。

能の魅力は「洗練された表現。現在は伝統芸能だが、家康のころは自由で楽しく鑑賞するものだったのでは」と述べた。

参加者は観阿弥が能を奉納した静岡浅間神社(葵区)や、三保松原(清水区)が舞台の能楽作品「羽衣」を紹介する映像も鑑賞した。



能について話す三宅教授＝静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニア